

ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」から授業の在り方

～保健医療福祉分野の情報を適切に取り扱う能力の育成に向けて～

1 はじめに

新学習指導要領では「実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域や社会の保健・医療・福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人として必要な資質と能力を育成する」ことを看護科の目標としている。看護情報の科目において、社会の変化に対応するため看護実践に必要な情報と情報技術に関する資質・能力の育成について内容の充実が図られている。そして、看護に求められる倫理的な課題の多様化への対応として多くの領域に倫理的課題が位置づけられている。看護職には情報について正しく取り扱う能力や職業人としての情報モラルや情報リテラシーを持ち合わせることが必須であり、保健医療福祉分野で扱う個人情報について、関係法規を遵守し、倫理観を踏まえて適切に取り扱い管理する能力が必要となる。

今回の研究では保健医療福祉分野の情報を適切に取り扱う能力の育成に向けて実践したICTを活用した授業の取組について報告し、その在り方について考察する。

2 単元の概要

- (1) 科目名 情報科学（看護情報）
- (2) 対象生徒 専攻科衛生看護科2年
- (3) 使用教材 看護情報学（医学書院）、学習プリント、タブレット端末、プロジェクタ
看護情報学DVD教材「vol.1 あなたの情報リテラシー」「vol.2 電子カルテの取り扱い」（医学映像教育センター）
- (4) 単元名 第13 看護情報（1）情報社会の倫理と責任

3 単元の目標

- (1) 医療情報システムに関する関係法規を理解するとともに、医療情報システムを取り扱うために必要な基本的な知識を身に付ける。【知識・技術】
- (2) 医療情報システムの特徴と個人に関する課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を考察する。【思考力・判断力・表現力等】
- (3) 情報社会の倫理と個人の責任について自ら学び、適切な情報の取り扱いに主体的かつ協働的に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
医療情報システムに関連する関係法規や電子カルテの取り扱いの基本的知識について理解する。	個人の行動と結び付け、看護実践する活動の中で必要な情報の取り扱いに関する倫理的態度を考察している。	情報の取り扱いに関する倫理的態度と個人の行動を結び付けながら、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画

(1)医療における情報システム・個人情報

2時間 本時

・患者情報の取り扱い

(1時間)

・電子カルテの取り扱い

(1時間)

指導計画

時間	学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
(1)医療における情報システム・個人情報の取り扱い 【ねらい】 患者情報の取り扱い方を理解し、看護実践の場における誤った取り扱いにより引き起こされる課題を明確にすることで適切な情報の取り扱いがわかる				
1	・医療分野における個人情報保護について理解する。	知	○	・個人情報保護法が理解できる。 ワークシート 定期考査
	・情報に関する患者の権利や守秘義務に関する法律を知る。	知	○	・看護情報に関連する法律について理解している。 定期考査
	・医療上システムの安全管理に関するガイドライン（厚生労働省）を理解する。	知	○	・医療上システムの安全管理に関心がもてる。 ワークシート
	・提示事例において、医療機関で働く医療者が個人情報保護のために努めなければならないことを考え、ワークシートに記入する。	思主		・誤った情報の取り扱いに気付こうとしている。 ワークシート 観察
	<ペアワーク> ・電子カルテの取り扱いについて注意事項をペア同士で考え、用紙に記入する。	思主	○	・自分の考えを提案したり、他人の意見を自分の考えに取り入れたりするなど主体的に取り組もうとしている。 ワークシート 観察
(1)医療における情報システム・個人情報の取り扱い 【ねらい】 臨床現場の事例を通して情報の取り扱い上の個人情報流出のリスクを考え、主体的に意見交換をすることができる。				

1	<グループワーク> ・看護実践現場のDVDを視聴する。事例①②を通して倫理観を欠いた行動による事態を見つけ、ワークシートに記入する。 ・日本看護協会の倫理綱領を想起し、自己の臨地実習での行動と結び付けて考える。 ・実体験から情報に関する倫理観を欠いた行動を振り返る。 ・授業を通しての学ぶ姿勢について自己評価する。	思 知 主	○	・自分の考えを提案したり、他人の意見を自分の考えに取り入れたりするなど主体的に取り組もうとしている。観察 ・倫理綱領を理解している。定期考査 ・自分の役割を認識した上で、メンバー相互に教え合う、気付きを伝えるなど協働的に取り組もうとしている。ワークシート 観察 ・自身の行動と倫理観のある行動を結び付けて考えている。アンケート
---	---	----------------------------	----------	--

6 成果と課題

本校は1年次より臨地実習がカリキュラムにあるため、そのオリエンテーションにおいて個人情報の取り扱いの指導をしている。オリエンテーションでは主に守秘義務の内容が中心となり、電子カルテの取り扱い方については説明がほとんどなかった。現状、実習先が多岐にわたり、その病院により電子カルテの種類がさまざまであり、細かい扱い方を学校で習得するのは困難であるため、電子カルテを用いた情報収集の仕方は現場教育に任せている部分が多い。そこで本校は「臨地実習における電子カルテの適正利用について（資料1）」を作成し、各学年共通して指導できる内容についてオリエンテーションを通して指導を開始した。看護情報の授業や情報収集で用いる電子カルテの取り扱いを学ぶための基礎看護技術の授業においても情報の適切な扱い方の説明をしているが、それぞれの授業を単独で行っており横断的な要素が少なく、生徒の様子から情報の取り扱いに対するリテラシーの低さを感じる場面が多くあった。そこで、今回は臨地の場で適切に情報を取り扱うことができるようDVD教材を用いて、より看護現場をイメージしやすい内容の授業を展開した。対象学年は専攻科衛生看護科2年（5年生に相当する）とし、今後看護職として働くイメージをもてるような教材を用いた。授業後の生徒の自己評価アンケートの結果を基に今回の成果と課題を考察する。

ほとんどの生徒が、今までの臨地実習の経験を想起しながら授業に臨むことができたと自覚しており、今後の行動につなげていきたいと意欲的な生徒が多かった。9割の生徒が積極的に授業に取り組むことができていた。電子カルテの適正利用についてのペアワークにおける作成では、臨地実習のオリエンテーションを受けた内容とほぼ同じ内容の成果物が多かったため、臨地実習前の指導は効果的であり、また今回の授業と結び付けることができたと感じる。事例のDVD視聴については、視聴する前に見る視点を伝えることで、個人情報の流出のリスクやそこに潜む課題を主体的に考える思考の道筋になったと考える。事例において、倫理観を欠いた行動、情報の漏えい、電子カルテの不適切な利用、証拠隠滅の目的での虚偽の事実とカルテ改ざん、そこから考えられる職業倫理の課題まで着目することができていた。各グループで考えた課題を発表した際、「自分もしてしまいそう」「それってやっちゃいけないんだ」など自己の行動につなげた発言が見られ、他人事ではなく自分事として感じ

ている生徒もいた。

また、生徒から、今回の個人情報の授業は本科1年生で受けるとよいという意見が多かった。基本的な内容であるため、医療者としての責任がもてるように早い段階から意識を高めていく必要性を生徒も感じていた。電子カルテの取り扱いについての授業は、本科2年生で行うべきであるという意見が全体の4割であった。本科2年生では系統的に情報収集をすることが求められる。それはベッドサイドで患者のそばに行くことで得ることの他に、電子カルテからの情報収集も含まれる。本格的に電子カルテの操作を求められる実習の前に、電子カルテの扱い方や情報リテラシーの向上を高めることが必要であるという声が多かった。その他として、長い実習期間や実習の機会が増えると慣れてきて、個人情報の取り扱いへの意識が低くなってしまうこともあるため、継続的に授業や研修を受ける必要があるという意見もあった。個人情報を適切に利用する能力は看護職として、卒業後も必須な能力である。単発の授業で終わらず、今実施しているオリエンテーションを活用し継続的な教育が必要であるとする。また基礎的なことを繰り返し指導する中では一方的になりやすい。基礎的な内容の繰り返し学習であれば、eラーニング教材をオンライン上に準備しておき、5年間で身に付けるスキルを定期的に学習させるシステムがあると、生徒自身の達成度に応じて自由に学習を進めることができると考える。各学年で教授された内容の理解度やその内容を忘れずに次の臨地実習に向かっているかを見極め、個に合わせた指導が可能になると考える。教材作成には時間を要すると予測されるが、情報を活用する社会に突入している現代においては継続可能で効果的なものとなるため、今後の課題としていきたい。